

「今、日本の薬剤師はどんな活躍をしているの？」

2018年9月26日(水)「城西大学公開講座」で、薬学部薬学科の井上裕准教授が「今、日本の薬剤師はどんな活躍をしているの?— ローカルとグローバルの視点から —」と題して講演をしました。



井上裕准教授は薬剤師として地域で働かれた実務経験をお持ちで、この講演でも日本の薬剤師はどんな活躍をし、これからどんな役割を求められているのかを、薬剤師の仕事の具体的な事例や薬学教育の現状を交えて紹介していただきました。

最初は薬剤師の仕事の紹介。一般的には「薬局でお薬を出してくれる人」だけれども、病院や診療所、製薬会社、行政、学校境域にまで関わっていることを説明されました。

続いては、大学の薬剤師養成課程が6年制になった意味を話されました。それは薬剤師の仕事が多様化したこと、薬の知識だけではなく医療現場で活躍できる実践力が求められること、人に寄り添う医療を担う人材になりことへの期待が込められていることなどが理由で、これでようやく国際水準に近付いたと説明、城西大学薬学部薬学科での取り組みを紹介しながら4年制時代との違いを解説されました。

今日のテーマのひとつ「ローカル」は、「かかりつけ薬剤師」のお話から。患者さんが関わる医療機関や服用薬を一元管理するだけでなく、健康サポートから在宅対応まで包括する仕組みですと説明。薬剤師がモノの業務から人に対する幅広い医療相談業務に向かっているとのことでした。「病院薬剤師」の話では、薬剤師の業務が拡大し、さらに病院にも特色を出すことが求められるなかで、薬剤師にも特化する動きがあること、一方で調剤業務は急速に自動化が進んでいることを話されました。



「グローバル」の視点は、イングランドの薬剤師の仕事の話。国民皆保険制度という日本との共通性はあるが、かかりつけ医とかかりつけ薬剤師の制度といった相違、国による医療の考え方の違い等をお話されました。

2時間の講演はあっという間に過ぎ、薬剤師の将来に大きな期待をもって終わりました。

(城西大学薬学部薬学科ホームページから)